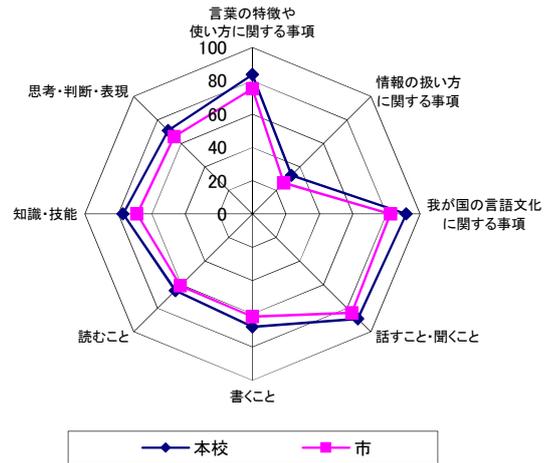


宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.8	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	32.9	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	91.8	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	89.0	83.9	84.2
	書くこと	67.8	61.7	64.5
	読むこと	65.1	60.9	61.0
観点別	知識・技能	77.1	68.8	70.3
	思考・判断・表現	71.0	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

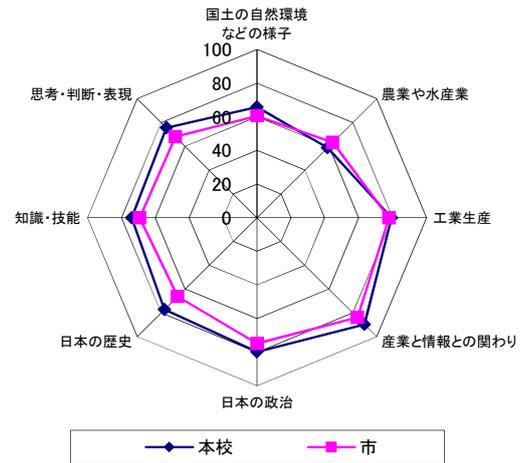
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は83.8%で、市の正答率を8.5ポイント上回った。 ○熟語の成り立ちや、文脈に沿った漢字、敬語についての問題では、市の正答率を10ポイント以上上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、当該学年のものはもちろん、前学年のものも定期的に出題するなどし、引き続き反復練習に取り組む場を設けて、基礎・基本の定着を図っていく。 ・読書や辞書の活用を継続的に行って語彙を増やすとともに、正しい使い方を学んだり、豊かな表現に触れさせたりして、言葉に関する感覚を磨きたい。 ・敬語の使い方については、日々の生活において継続的に指導し、意識の向上を図る。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○校内正答率は32.9%で、市の正答率を6.4ポイント上回った。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く記述式の設問の校内正答率は45.2%で、市の正答率より9.4ポイント上回った。 ●情報同士の関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の正答率を3.3ポイント上回ったものの、校内正答率が20.5%と低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章や会話の中から必要な情報を読み取る力を高めるために、文章を正しく丁寧に読み進めていくことや、集中して話を聞くことに重点を置いた学習活動を多く設ける。 ・文章の内容を図や表を使って整理する学習を積極的に取り入れ、自分の理解を深めたり、人に分かりやすく伝えたりすることができるようにする。 ・原因と結果など、情報同士の関係に注目して文章を読んだり書いたりすることができるような場を、日常的に設けて指導する。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○和語、漢語、外来語について問われる設問の校内正答率は91.8%で、市の正答率を9.4ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・和語・漢語・外来語の見分け方をしっかり押さえ、正しく分類できるように練習を重ねるとともに、日頃から漢字の音や訓に着目するよう意識付けをする。 ・簡単な古文や漢文などに触れる機会を多く設け、音読させたり暗唱させたりして、文語調の文章に親しませ、言葉の理解を深めさせる。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○校内の正答率は89.0%で、市の正答率を5.1ポイント上回った。 ○自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える問題の校内正答率は84.9%で、市の正答率を6.0ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いて分かったことを短い文章にまとめていくなどの活動を取り入れ、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を的確に捉えられるようにする。 ・話す相手や目的などに応じた話し方ができるよう、例えば、委員会の仕事を全校児童に説明したり、地域の方々に感謝の気持ちを伝えたりするなど、様々な場を設けて指導する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○校内の正答率は67.8%で、市の正答率を6.1ポイント上回った。 ○予想される反論とそれに対する意見を記述で答える問題では、校内の正答率が57.5%で、市の正答率を14.1ポイント上回った。 ●指定された長さで文章を書く問題や、自分の意見とその理由を明確にして書く記述式の問題では、市の正答率をわずかに下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えの根拠を明確にするために、ワークシートを工夫して、筋道の通った文章の構成を考えさせる。 ・基本的な文章の型を示すなど、書くことへの抵抗感をなくすとともに、原稿用紙の使い方を復習して、自信をもって書く活動に取り組めるようにする。 ・書いたものを友達同士で読み合う活動を取り入れ、多様な表現に触れさせ、書くことの楽しさを味わえるようにする。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○校内の正答率は65.1%で、市の正答率を4.2ポイント上回った。 ○登場人物の心情について描写を基に答える問題の校内正答率は91.8%で、市の正答率より10.6ポイント上回った。 ●登場人物の様子について描写を基に答える問題の校内正答率は63.0%では、市の正答率を0.5ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情や様子が分かる言葉に注目させ、相関図や感情曲線を用いて比較していくことで、その変化を読み取るようにする。 ・叙述から読み取ることを、日頃の授業において繰り返し指導していく。

宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	65.8	60.5	65.8
	農業や水産業	58.9	63.3	66.0
	工業生産	79.5	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	89.7	83.8	76.6
	日本の政治	79.8	74.9	74.1
	日本の歴史	77.2	66.3	68.3
観点別	知識・技能	74.0	69.3	71.4
	思考・判断・表現	75.5	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

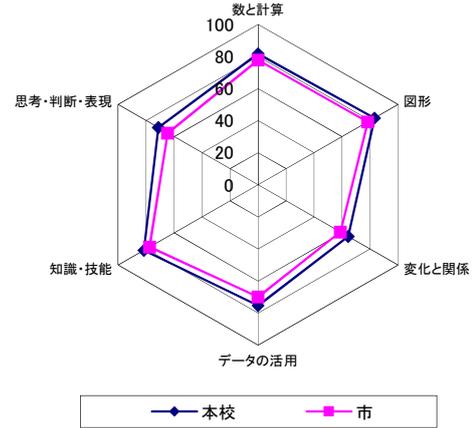
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○校内正答率は65.8%で、市の正答率を5.3ポイント上回った。 ●公害について理解しているかを問う問題の校内正答率は市の正答率を2.7ポイント上回ったが、28.8%と正答率が低い。	・病気の発生となった原因や、時代背景について、多面的・多角的に考えるさせることにより、内容理解に努める。また、「公害とは」という問いを持たせ、資料集や教科書などを活用し、自分の言葉としてまとめられるように指導をする。
農業や水産業	●校内正答率は58.9%で、市の正答率を4.4ポイント下回った。 ○輸入などの外国との関わりについて考えているかを問う問題の正答率は67.1%で、市の正答率と同等である。 ●日本の主な食料の自給率について理解しているかを問う問題の校内正答率は34.2%で、市の正答率を2.1ポイント下回った。	・日本の農業について考える際に、気候や地形・輸出入などの観点から、なぜ地域によって作るものが異なるのか、なぜ盛んになるのか等、問いをもち、資料集や地図などを活用して考えるようにしていきたい。また、日本の食料自給率のグラフを読み取ることで、自給率の推移についても考えさせるなど、授業展開を工夫し、表現できる力を身に付けさせたい。
工業生産	○校内正答率は79.5%で、市の正答率を1.6ポイント上回った。 ○自動車の製造工程について理解しているかを問う問題の正答率は95.9%で、市の正答率を5.7ポイント上回った。 ●日本の主な輸出品・輸入品について理解しているかを問う問題の正答率は53.4%で市の正答率を3.1ポイント下回った。	・日本国内において生産されている輸出品について理解するために、地域の特性や地形など、根拠を基に説明ができるようにさせたい。また、日本は輸入品について、輸出と同じ機械類を輸入していることから、機械類の内容についても触れ、自分の言葉でまとめられるようにさせたい。
産業と情報との関わり	○校内正答率は89.7%で、市の正答率を5.9ポイント上回った。 ○産業における情報活用の現状について考えているかを問う問題の正答率は82.2%で市の正答率を7.4ポイント上回った。	・インターネットを利用することの良さや問題点については、引き続き、折に触れて指導していく。 ・産業とインターネットがつながることで、便利になる点や危険性にも触れながら、考えるようにさせたい。また、「フードロス」などの言葉を知ることで、より多面的に考えられるようにさせたい。
日本の政治	○校内正答率は79.8%で、市の正答率を4.9ポイント上回った。 ●平和主義の基本的な考え方について理解しているかを問う問題の正答率は87.7%で、市の正答率を5.9ポイント下回った。	・日本国憲法の三つの原則について、言葉では覚えてはいるものの、内容理解についての説明は難しいことから、授業展開を工夫し、学んだことを、自分の言葉で表現できる力を身に付けさせたい。
日本の歴史	○校内正答率は77.2%で、市の正答率を10.9ポイント上回った。 ○元との戦いについての理解をもとに、防塁が築かれた場所を判断しているかを問う問題の正答率は、市の正答率を9.9ポイント下回り、53.4%である。	・歴史的な事象を、絵や地図などの資料と言葉を関連付けさせて理解させたい。また、統計グラフや当時の絵や写真などの資料から、何が読み取れるのかを考え、発表し合う場を設定したり、資料と資料を関連付けたりしながら、今後も基礎・基本の定着を図って行きたい。

宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	81.7	77.7	78.6
	図形	83.3	78.4	74.4
	変化と関係	64.4	58.7	53.0
	データの活用	75.3	69.9	57.2
観点別	知識・技能	81.7	77.5	74.0
	思考・判断・表現	71.2	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

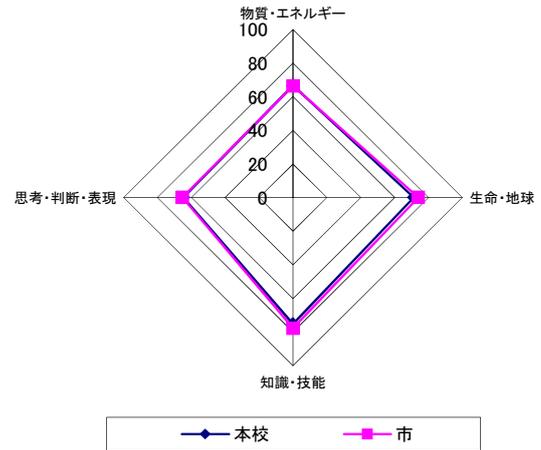
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○校内正答率は81.7%で、市の正答率を4.0ポイント上回った。</p> <p>○小数の乗法の文章問題を表した図の構造を捉える問題の校内正答率は94.5%で、市の正答率を10.7ポイント上回った。</p> <p>●小数第1位×小数第1位の計算の校内正答率は78.1%で、市の正答率より1.7ポイント下回っている。</p>	<p>・問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線、線分図、テープ図などで正確に表すことで、問題を解決することができるように計画的に指導・支援をしていく。また、文章問題や日常生活に関わる問題を解く機会を計画的に設定し、数量の関係について自分の言葉で記述して表現したり他者に説明したりするような数学的活動を積極的に取り入れるようにすることで、基礎・基本の着実な定着を図るようにしていく。</p>
図形	<p>○校内正答率は83.3%で、市の正答率を4.9ポイント上回った。</p> <p>○底面積と高さから角柱の体積を求める問題の校内正答率は91.8%で、市の正答率を10.5ポイント上回っている。</p> <p>●三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を理解する問題の校内正答率は83.6%で、市の正答率を4.0ポイント下回った。</p>	<p>・図形の学習では、図形の感覚を豊かにしながら図形の性質を実感することができるようにするため、各学年で必要となる知識・技能を確実に習得したり、知識同士を結び付けたりしていくことが大切である。図形に関する基本的な知識・技能を着実に身に付け、活用していくことができるようにするため、具体物を用いたり作図を取り入れたりすることで、数学的活動の充実を図るようにする。</p>
変化と関係	<p>○校内正答率は64.4%で、市の正答率を5.7ポイント上回った。</p> <p>○表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるかを考察する問題の校内正答率は64.4%で、市の正答率を9.5ポイント上回っている。</p> <p>○速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題の校内正答率は60.3%で、市の正答率を6.0ポイント上回っている。</p>	<p>・単位量あたりの大きさや速さ、割合をはじめ変化と関係に関する問題に対しては、自分の考え方を数直線や線分図、式、言葉などを使って表したり、自分の言葉で分かりやすく説明したり、教師や友達の説明を聞いてから、改めて補足したりするなどの数学的活動を計画的に取り入れるようにする。また、既習の学習内容を繰り返し復習し、学習した知識を身近な生活の中で積極的に活用していくことで、確実な定着を図ることができるようにする。</p>
データの活用	<p>○校内正答率は75.3%で、市の正答率を5.4ポイント上回った。</p> <p>○度数分布表を完成させる問題の校内正答率87.7%で、市の正答率を10.4ポイント上回っている。</p> <p>○ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録がいちばん多いわけではないことを説明する校内正答率は49.3%で、市の正答率を4.7ポイント上回っている。</p>	<p>・度数分布表やヒストグラムをはじめ、様々なグラフや各種のデータを正確に読み取り、問題場面と関連付けて、問題解決の方法を自分の言葉や式で説明するような数学的活動を計画的に取り入れる。全体での指導を行いながら、個の実態に応じたきめ細かな指導・支援をしていくことで、それぞれのグラフのよさやデータの特徴に気付くことができるようにしていく。また、既習事項を生かして、算数だけでなく、他教科や領域の学習、身近な生活の中で活用するようしていくことで、それぞれのグラフのもつよさやデータの特徴・傾向に気付くことができるようにする。</p>

宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.6	66.5	66.3
	生命・地球	71.3	74.0	72.6
観点別	知識・技能	75.1	77.6	78.2
	思考・判断・表現	64.8	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○校内正答率は66.6%で、市の平均を0.1ポイント上回った。</p> <p>○「物の燃え方の実験の結果について検討し、改善できる」を問う設問では、校内正答率79.5%で、市の平均を8.6ポイント上回った。</p> <p>●「メスシリンダーで水を正しくはかりとることができ、正しい過の操作ができる」について問う設問では、校内正答率63%で、市の平均を11.9ポイント下回った。</p>	<p>・「メスシリンダーの正しい使い方や、ろ過の仕方」などの学習では、キーワードや実験記録ノートを確認したり、映像資料を活用したりして理解させるようにしていきたい。また、教科書の確かめ問題やまとめの部分などを活用し、既習内容を確認することで定着を図っていく。</p>
生命・地球	<p>●校内正答率は71.3%で、市の平均を2.7ポイント下回った。</p> <p>●「野生のメダカが何を食べているかを理解している」について問う設問では、校内正答率は78.1%で、市の正答率を9.8ポイント下回った。</p> <p>○「何を太陽と月と地球に見たてているかを指摘できる」を問う設問では校内正答率97.3%で、市の正答率を3.4ポイント上回った。</p>	<p>・メダカが水槽のかべや底の石をつついていている場面等の観察を通して、何を食べているのかを考えさせたり、水槽についているものを解剖顕微鏡で観察したりして、小さな生物を食べていることを理解させる。また、普段の生活の中においても自然の現象に着目し、「なぜ」「どうして」と疑問をもつ機会を増やしていくようにする。</p> <p>・ボールを月に見立てて実際に実験を行ったり動画を活用したりするなど、視覚的に分かりやすくしたため、理解が高まった。</p>

宇都宮市立横川中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「分かる授業」「楽しい授業」の実現に向けた授業形態の工夫	本校の研究主題「主体的に、自分の考えや思いを表現し、学び合う児童の育成～個別最適な学び・協働的な学びを通して～」のもと、ICTの効果的活用を模索しながら、児童の実態に応じて、ペア、グループ、学級全体での話し合い活動など、対話的な話し合い活動を行うよう工夫する。	「勉強が好きですか。」の項目に肯定的に回答した児童の割合は、1年生は85.7%、2年生は76.5%、3年生は74.7%、4年生は72.6%、5年生は61.7%、6年生は53.2%という結果だった。4年生については、市の肯定割合を上回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初め4月に、家庭学習に関する保護者あて通知を出し、学校としての家庭学習の基本的な考え方や自主学習の取組例を示し、家庭と連携しながら、習慣化に向けた指導を行っている。	「宿題はきちんとやり、期限までに提出している。」の項目に肯定的に回答した児童の割合は2年生は96.3%、4年生は91.7%、5年生は88.3%で市の肯定割合を上回ったものの、1年生は90.5%、3年生は87.3%、6年生は86.1%で市の肯定割合を下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国語科・算数科・社会科の内容において、国・県・市の正答率を上回った。記述式の設問の無回答率は、市の平均と比べて低く、意欲の高さが見られる。各学年の発達段階に応じて、各教科・領域の学習の中で書くことを意識した活動を実施し、発表や説明をしたりする機会を計画的に設ける指導をすることで、書くことへの苦手意識や抵抗感をなくすよう努め、児童一人一人の思考力・判断力・表現力の更なる育成を目指す。

・社会科の「農業や水産業」の領域の正答率については、市の平均を下回った。総合的な学習の時間の身近な地域の農業を学ぶ学習と関連付けるなどして、農業や水産業への関心を高め、知識の定着につなげる。

・理科の内容において、知識・技能、思考・判断・表現について市の正答率を下回った。実験や観察を記録する活動を通して、より一層定着が図れるよう、体験的な活動を積極的に取り入れていく。